おたより

本地丘小学校・森孝東小学校・森孝西小学校の統合及び森孝中学校との併設について

令和8年11月 名古屋市教育委員会

令和8年10月に、本地丘小学校・森孝東小学校・森孝西小学校の統合及び森孝中学校との併設に向けた説明会を開催し、6日間で延べ70人の方にご参加いただきました。

説明会での質疑やアンケートでいただいたご意見・ご質問について、教育委員会の考え方をまとめましたので、お知らせします。

※ より詳しい内容は、名古屋市公式ウェブサイトから「おたより(詳報)」をご覧ください。

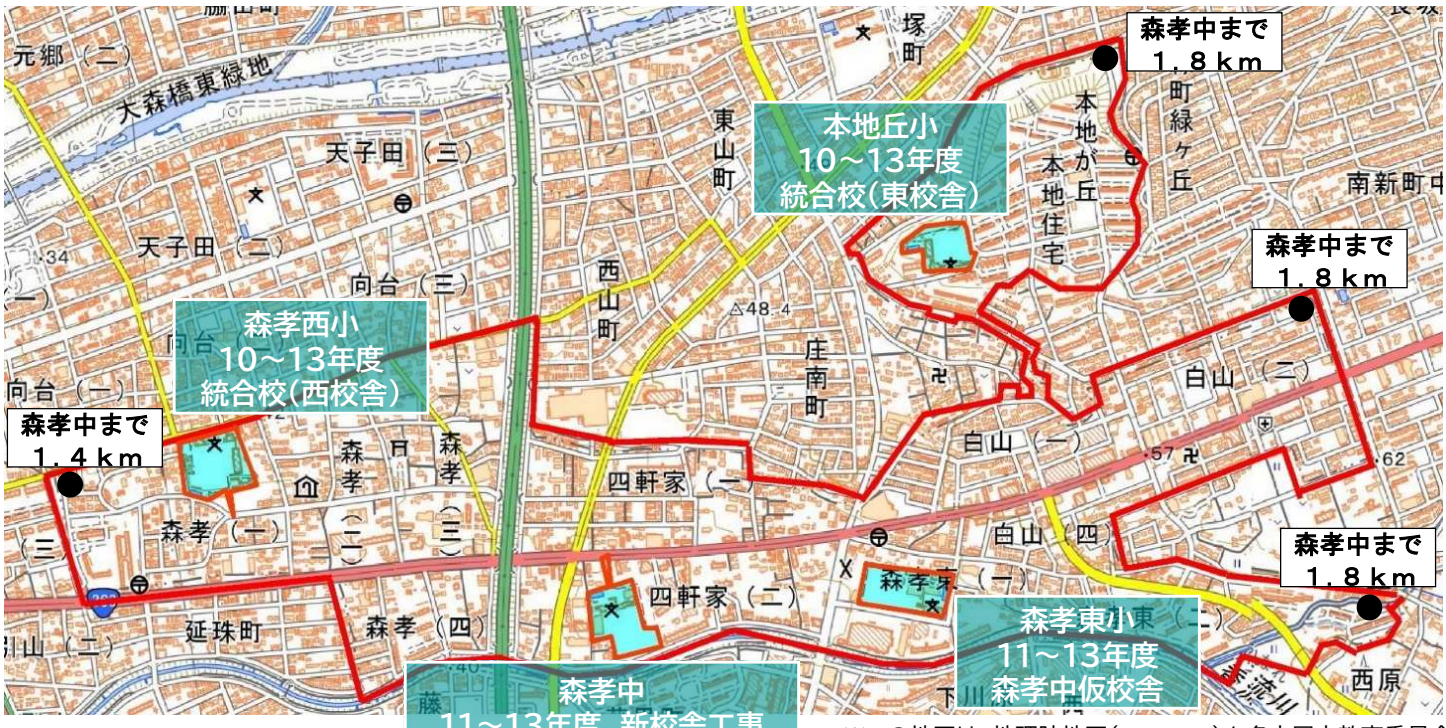
統合案について

小規模校化が継続する本地丘小学校・森孝東小学校・森孝西小学校の3校を統合し、森孝中学校と併設します。

通学先・通学区域・通学距離
(令和8年度統合決定の場合)

※令和10年4月 統合校開校(東校舎・西校舎で運営)
※令和14年4月 小中併設校開校(新校舎で運営)

学区	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
本地丘学区 児童の通学先	本地丘小	統合校東校舎(本地丘小の場所)				新校舎 (森孝中の場所)
森孝東学区 児童の通学先	森孝東小					
森孝西学区 児童の通学先	森孝西小	統合校西校舎(森孝西小の場所)				
森孝中 生徒の通学先	森孝中		森孝中仮校舎(森孝東小の場所)			



※この地図は、地理院地図(GSI Maps)を名古屋市教育委員会教育環境整備課が加工して作成したものです。

主なご意見・ご質問と教育委員会の考え方

1　統合の方針

Q　いろいろな人と関わりながら育ってほしいため、統合によってそれがかなうと思います。また、クラス替えができることも大きなメリットであると思います。

A　今回の統合により、クラス替えのできる望ましい学校規模を確保することで、子どもたちが多くの考えや価値観に出会い、社会性や協調性を伸ばす機会につながると考えています。また、クラス替えや新しい友達との出会いによって、心機一転して新たなスタートを切ることができるなど、多くの同じ学年の仲間と関わり合うことは、子どもの成長にとって大切であると考えています。

Q　3小学校の統合はやむを得ないと考える人でも、小中併設には不安を感じています。併設することのメリットを教えてください。

A　小中併設には、教員同士が連携しやすくなること、行事や活動を通じて児童生徒が交流できること、多くの教職員の目で子どもを見守ること、中学校進学時の不安やつまずきを減らすことなどが期待できます。これらは、小学校と中学校が同じ施設にあることで生まれる効果であると考えています。

また、新校舎では、グループ学習や個別学習に対応したスペース、充実した図書室・学習スペースなど、新しい学びに適した教育環境を整備したいと考えています。

Q　本地丘小と森孝東小の2校だけを統合すればいいのではないでしょうか。

A　本地丘小と森孝東小の2校だけを統合しても、クラス替えができる望ましい学校規模にはならない見込みです。そのため、森孝西小を含む3小学校の統合を進めたいと考えています。

2　通学の安心・安全

Q　通学の安全対策について、具体的にどのような対応を検討しているのでしょうか。

A　通学の安全対策については、統合決定後に、学校、PTA、地域住民などで構成する懇談会において、通学路や交通安全、防犯、熱中症対策について意見を伺い、警察や土木事務所などの関係機関と協議しながら対策を進めます。具体的には、ガードパイプや横断歩道、歩行者信号などを整備するなど、必要な対策を検討していきます。

Q　通学距離の目安を2kmとする根拠を示してほしいです。スクールバスでの通学について、一つの選択肢として考えてほしいです。

A　国では、学校を適正規模にするための統合における通学距離の基準として、概ね小学校が4km、中学校が6kmと規定されていますが、本市では概ね小学校が2km、中学校が3kmを目安としています。

スクールバスの導入については、市内には、2km近く又は2kmを超えて徒歩で通学している児童がいる小学校もあることから、困難であると考えています。

3 新しい学校づくり

Q 小学生と中学生が同じ校舎で生活することに対する安全対策はどのように考えていますか。

A　小学校と中学校が主に使用する教室を階層ごとに分け、昇降口も別に配置することで、登校時の混雑や日常的な接触を減らすことを検討しています。また、時間割の工夫や複数の体育館を整備し、活動時間や使用場所を分けることなどで、児童生徒の安全を確保したいと考えています。

Q　統合校の開校や新校舎への移転により、子どもの環境が何度も変わることが心配です。スクールカウンセラーを常駐させるなど、相談体制を十分に整えてほしいです。

A　小学校のスクールカウンセラーについては、これまでの統合校では、常駐ではありませんが、通常の学校と比べて配置時間数を多くし、きめ細かく子どもに対応できる体制を整えてきました。今回の併設校においても、これまでの統合校での取り組みを参考にしながら、子どもの不安や悩みに対応できる相談体制をしっかり整えていきます。

Q 併設校では中学生にも給食を提供してほしいです。

A　小学校では給食を提供する予定であり、調理場の整備や調理員の配置を行います。中学校もこれまで通りスクールランチが提供できるようにランチルームなどの整備を行う予定です。中学生への給食の提供については、検討した結果、小学校の調理場で中学校分の給食を同時に調理することは技術的には可能ですが、栄養価や昼食の時間を考えると難しいと考えています。

4 施設整備

Q　森孝中の敷地の広さで、小学校と中学校の体育館を２つ整備し、運動場も確保することは可能なのでしょうか。また、理科室、音楽室などの特別教室も、小学校と中学校でそれぞれ整備されるのでしょうか。

A　体育館については、中学校用の体育館と、小学校用の体育館兼武道場の２つを整備することを検討しています。森孝中の敷地内に２つの体育館を配置しても、運動場に必要な面積を確保できると考えています。特別教室など校舎の具体的な整備内容については、今後、併設校を設計する段階で検討します。

Q　熱中症対策として、併設校には、ウォータークーラーやネッククーラーを冷やす冷凍庫を設置してほしいです。統合校の東校舎・西校舎にも設置してほしいです。

A　併設校には、下校時に水筒へ冷水を補給するためのウォータークーラーや、ネッククーラー用の冷凍庫を設置することを考えています。統合校の東校舎・西校舎への設置については、統合決定後、学校と相談しながら検討していきたいと考えています。

5 跡地活用

Q　跡地について、具体的にどのような対応を検討しているのですか。

A　跡地利用については、統合決定後、地域からのご要望を伺い、その内容を踏まえ、教育委員会だけでなく市全体で利用方法を検討します。教育委員会としては、森孝東小の運動場を併設校のサブグラウンドとして活用するとともに、避難所や地域コミュニティーの活動場所としての機能も維持するよう働きかけを行っていきます。

6 その他

Q　先日の豪雨では、森孝中で保護者への引き渡しが夜遅くまで続き、周辺では交通渋滞も起きました。安全が十分とは言えない場所に、３小学校の児童と中学校の生徒を集めることに不安があります。

A　豪雨時には、子どもの安全を最優先に対応します。下校時刻に大雨が予想される場合は児童生徒を学校に待機させ、状況に応じて保護者への引き渡しを行います。雨が弱まり下校できる場合も、必要に応じて教員が付き添うなど、安全を確認しながら対応します。

なお、内水氾濫ハザードマップでは、森孝中周辺の浸水深は0.3m未満とされており、先日の豪雨では、森孝中の正門前で膝下程度の浸水がありましたが、運動場の浸水や中学校周辺の香流川の氾濫は確認されていません。

Q　現在の本地丘小、森孝東小、森孝西小の体育館にも、空調を設置してほしいです。

A　統合校の東校舎となる本地丘小、西校舎となる森孝西小の体育館には令和10年度に向けて、森孝中の仮校舎となる森孝東小の体育館には令和11年度に向けて、空調を設置する方向で調整しています。

お問い合わせ先等

名古屋市教育委員会事務局
教育環境整備課
電話:052-972-3282　FAX:052-972-4176
E-MAIL:a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

名古屋市公式ウェブサイト
「本地丘小・森孝東小・森孝西小における取り組み」で検索

https://www.city.nagoya.jp/kodomo/schools/1027693/1016995/1016810/1016833/1016858/index.html

統合に関する情報、説明会資料、おたより（詳報）などを掲載しています。